

## 「老い」を知り、体験する「老いパーク」

### ◆日本科学未来館で「老い」をテーマにした新常設展

東京・お台場エリアにある日本科学未来館は、7年ぶりに常設展を大幅リニューアルし、2023年11月から「ロボット」「地球環境」「老い」の3つをテーマにした展示が新たに公開された。なかでも注目したいのが「老い」をテーマにした「老いパーク」の体験型展示だ。「未来館」と「老い」はどうつながるのか、実際に展示場に行って体験してきた。

まず入り口にあるパンフレットを手にとると、展示案内の頁がぼやけて読めない。この老眼の疑似体験に始まり、目、耳、運動器、脳の4つの老化をゲーム型の展示を通して疑似体験できる。



入り口には、大きく光る「老」の字が  
写真提供：日本科学未来館

また老化現象が起こるメカニズムや、必要に応じて選べるサポート技術やサービスなど、さらには近い将来身近になるかも知れない研究開発中の技術も紹介されている。最後に「自分らしい老いって？」という問いかけがあり、老いと向き合う人々のインタビュー映像を見ながら、自分自身の老いに思いを馳せる。

### ◆ソニーグループが開発中の子ども型見守り介護ロボットも常設展示

「老いパーク」にはソニーグループが開発中の見守り介護ロボット「ハナモフロール」も常設展示されている。怖がりやすく、新しいことが苦手な認知症の症状がある人にも親しんでもらえるようにと、子どもの姿をモチーフにしている。

あらかじめ設定したプログラムに沿って、簡単な会話や体温の計測などができ、介護施設での利用を想定している。人手不足の介護施設では、見守りが手薄になると不安定になる入居者もいるからだ。同社は現在、実用化に向けて実証実験中で、今後、AIや顔認証システムを導入し入居者を1人ずつ判別し、自然な会話ができるようになることを目指しているという。



展示中のソニーグループの  
子ども型見守り介護ロボット  
「ハナモフロール」

「老いパーク」は、老いを疑似体験し、科学的に知ることで、老いにより能動的に向き合うきっかけを提供してくれたように思われる。

【秋元真理子】